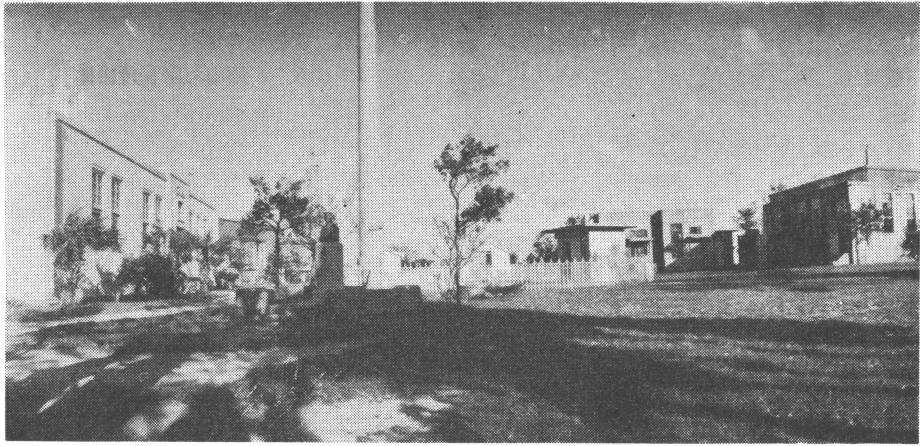


地方だより

石垣島測候所



正面から見た構内

南の果て……天気図プロッターがよく知っている 918の地点。名はその歴史63年を数えるだけに台風前線基地として有名。戦後の測候所はどうなったか。庁舎官舎ともに弾痕を補修されて昔のまゝ。岩崎翁の銅像も機銃で胸部貫通を受けたがきれいに直った。春光昭和の藤原台長の揮毫の額も所長室にかけられている。戦争のあとはない。見上げる36米のポール2本は昭和3年製長波時代の遺物。観測の日影の問題のみならずアンテナ張り

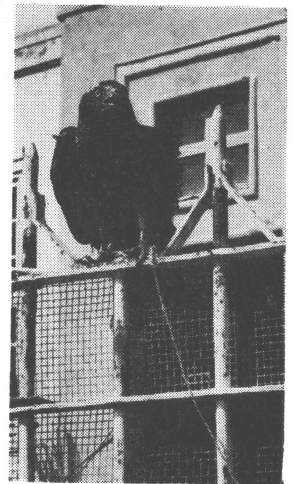
かえは難事中の難。しかし銅像と共に石垣市(街の中の人口二万四千)のシンボル。観光バスのガイドの好材料となっている。喜多豊一所長時代の化学薬品がそのまゝ残っている。よき時代の名残、目下検査中。写真の向う側に広大な敷地がそのまゝあり次の建設を待っている。職員24名、技術業務の二課制。マラリヤの撲滅に成功した島はほとんど開拓を完了し、パイと甘蔗におおわれ

観測のシンボル岩崎翁の銅像(昭和3年建立)と長波アンテナ用の地上36米のポール

完成予定で着工。竣工後は鹿児島港よりよくなるとのこと。開発は西表島へと伸びている。亜熱帯常緑の島の明け暮れは単調、紅葉は盛夏カラ台風の潮風で全島植物は枯れるとき「火風」と島の人は云う。台風と早ばつの長期予報が要求されたゆえん、候鳥は10月10日頃のさしばの渡来が印象的。かも・白さぎ・春秋のつばめが主なもの。店頭の商品はほとんど内地製。月刊雑誌も豊富。値段は日本円の4割がドル値(百円は40仙)

戦前からの職員は業務課長 宜寿次長章 業務係長 大浜永助 技術課長 真喜屋寅彦 予報係長 大山春明 観測係長 崎山泰達のみ。瀬名波長宣翁は悠々自適、南風原美二氏は商業、それぞれ健在。

(所長 北村伸治 当所創設63周年を迎えて12月5日記す)



秋の訪れ
渡り鳥 さしば